



愛晃会文化部は、生徒さんから文芸作品を募集し、外部の先生とともに受賞作品を決定しています。

昨年の作品の中で小児ガンのセミナーを受け、レモネードスタンドを知り、実際に開催してみたいという著者の気持ちを受け、今回文化祭で開催することとなりました。多くの方々にこの活動を知っていただき、活動の輪が広がっていくことを願っています。ぜひ、学園ホームページ(愛晃会)に掲載してあります「小児ガンを考える」という作品もご覧頂ければ幸いです。以下、著者から皆様へのメッセージです。本日はご協力ありがとうございました。



中学二年の夏、小児集中治療医に密着したドキュメンタリー番組を見ました。先生は、小児がんで入退院を繰り返す十代の少年と、「退院するまで一緒にひげを伸ばそう」という約束をしますが、少年が帰らぬ人となってしまった為、以来一度もひげをそり落とすことができなくなったそうです。

このことがきっかけとなり、私は「小児がん」について学びたいと思い、昨年の夏休み、日本医科大学千葉北総病院で開催された「～小児がん支援のレモネードスタンド～」セミナーに参加しました。病に関する講義のほか、「大人のがんの方が小児がんに比べて、かかる患者数が多いため、がん研究やがんの治療方法の開発は遥かに進んでいる一方、大人と比べると患者数の少ない小児がんの研究は、思ったほど進められていないのが現状である」というお話を伺いました。小児がんの研究や医療技術の開発には沢山の資金が必要となります。

子どもたちに、学校生活を送るなどの、当たり前の日常生活を取り戻してあげたい、私にも何か出来ることはないだろうかと考えました。そこで、文化祭で「レモネードスタンド」を開催すれば、多くの方に認知して頂くことができ、さらに支援の輪が広がっていくのではないかと思います。わずか一杯のレモネードが、実は大きな力になるのです。私たちの運動で、永年小児がんに苦しんでいる子どもたちの未来が明るいものになるのです。これをきっかけに多くの方々に「レモネードスタンド」を知っていただけると嬉しいです。

